

---

## 研究活動報告

---

### 特別講演会 (8月2日, Dr. James McNally)

2004年8月2日(月)午後2時半~4時半に当研究所で, 米国ミシガン大学社会調査研究所大学間政治社会調査協会(ICPSR/ISR)内のデータアーカイブの一つである全米高齢者電子化データアーカイブ(National Archive of Computerized Data on Aging/NACDA)所長のジェームス・マクナリー(James W. McNally)博士が「家族研究についての課題と機会——高齢化・健康・家族サポート」("Challenges and Opportunities for Research on the Family: Publicly Available Data on Aging, Health and Family Support")と題された特別講演を行った。今回の特別講演は同アーカイブのホームページ(<http://www.icpsr.umich.edu/NACDA/index.html>)でできる検索が可能なCD-ROMが配られたという点だけでなく, 民間企業やシンクタンクからの参加者が多かったという点でも異例であったが, わが国でもビジネス・デモグラフィーを含む応用人口学に対する潜在的需要が高まっていることが浮き彫りになった。(小島 宏記)

### 日本建築学会2004年度大会(北海道)

日本建築学会2004年度大会(北海道)は, 2004年8月29日(日)~31日(火)の3日間にわたり, 北海道札幌市の北海道大学を主会場として開催された。「ささえる」という大会のメインテーマのもと, 学術講演会のほか, 多数のシンポジウムやパネルディスカッション, 講演会などが札幌市内外で開催され, 学会員にとどまらず, 多くの一般市民の参加を得て盛況であった。

学術講演会では, 人口や世帯・家族に関する近年の傾向として, 高齢者と家族とのサポート関係と居住関係との関連を扱う報告や, 共働きの子育て世帯の住要求や地域施設需要に関する報告が増えている印象を受けた。また, 筆者が司会を務めたセッションでは, マーケティングの観点から, 急性期医療の地域需要予測や介護需要の統計的検討, 介護施設の規模計画を論ずる報告などがとくに興味を引いた。いずれの報告も, 限られた時間内で活発な議論が行われていた。施設や都市の再編を論ずるとともに, 学会として, その構造・計画・環境の各部門がそれぞれ何をささえるのかという命題に取り組む意欲が伺える大会であった。(小山泰代記)

### 日本統計学会第72回大会(2004年度統計関連学会連合大会)

一昨年度から応用統計学会, 日本計量生物学会の大会と共に統計関連学会連合大会に統合された, 日本統計学会(会長: 藤越康祝・広島大学教授)の第72回大会(連絡委員会委員長: 広津千尋・明星大学教授, 実行委員会委員長: 早川 毅・富士大学教授, 企画委員会委員長: 柴田里程・慶応義塾大学教授)が2004年9月3日(金)~6(月)の4日間にわたって花巻市の富士大学で開かれた。9月3日(金)午後には2つのチュートリアルセミナー, シンポジウム, 市民講演会が開かれたが, そのうち, 市民講演会では日本人口学会会員の大林千一総務省統計局長が「地域統計とその活用」というテーマで報告された。

翌4日(土)から6日(月)にかけて55のセッションで研究報告会が開催されて約200件以上の報告がなされるとともに、3つのコンペティションのセッションで大学院生等の若手研究者による報告が行われた。「統計調査」、「官庁統計」といった人口に関連するセッションがあったが、人口または当研究所に直接関連する報告としては以下のものがあった。

#### 「官庁統計」

- 3 二相抽出法を利用した国民生活基礎調査所得分布推定の検討
- |      |       |
|------|-------|
| 石井 太 | 厚生労働省 |
| 關 雅夫 | 厚生労働省 |
| 西郷 浩 | 早稲田大学 |
| 樋田 勉 | 群馬大学  |

#### 「医学データ解析」

- 3 社会調査による疫学的研究の可能性——JGSS-2002を用いたアレルギー性疾患要因分析
- 小島 宏 国立社会保障・人口問題研究所

#### 「経済経営統計(2)」

- |                        |      |          |
|------------------------|------|----------|
| 1 人口構造の影響等を考慮した雇用指標の検討 | 長尾伸一 | 総務省統計局   |
| 2 家計消費に見られる人口構造変化の影響   | 伊原 一 | 総務省統計研修所 |
| 3 都道府県人口移動に関する特徴       | 吉岡 茂 | 立正大学     |
| 4 集計単位としての世帯概念に関する一考察  | 田中雅行 | 総務省統計研修所 |
|                        | 佐藤朋彦 | 東京大学     |
|                        | 松田芳郎 | 東京国際大学   |

#### 「統計原理と生存統計」

- 5 生存統計による超高齢者寿命分布の解析
- |      |        |
|------|--------|
| 華山宣胤 | 尚美学園大学 |
| 渋谷政昭 | 高千穂大学  |

なお、2005年度連合大会は9月に広島市で開催される予定である。

(小島 宏記)

## 第14回日本家族社会学会

日本家族社会学会第14回大会は、2004年9月11日～12日(日)の2日間にわたり、東京の日本大学文理学部において、開催された。12日の午後には、『現代社会における家族ならびに結婚を問う』『パートⅢ 現代家族の存在意義を問う』と題されたシンポジウムが行なわれた。同テーマで過去2回行なわれたシリーズの最終回でもあった。書評セッションでは、『現代家族の構造と変容—全国家族調査[NFRJ98]による計量分析』(渡辺秀樹・稲葉昭英・嶋崎尚子編、東京大学出版会、2004年刊)が取り上げられた。自由報告では、『結婚研究の動向—未婚化・晩婚化の要因解釈を中心として—』(工藤豪 日本大学大学院)、『所得変動と初婚に関する研究』(福田節也 明治大学)、『デンマークにおける出産行動の変容とその規定要因：1990年代以降を中心に』(青木加奈子 奈良女子大学大学院)、『日本・台湾・韓国における子どもに関する意識の規定要因』(小島宏 国立社会保障・人口問題研究所)、『シンガポール社会における出生の動向』(園井ゆり 九州大学)といった、結婚・出産行動に関わる報告のみならず、広い意味で人口に関わる報告が多数なされていた。(釜野さおり記)